

令和4年度 第2回美術館運営協議会会議録

1 日時

令和5年3月2日(木) 午前10時30分～午前11時 55 分

2 開催場所

豊田市美術館講堂

3 出席者

〔委員〕

栗田 秀法、正村 美里、近藤 かおる、伊藤 一廣、吉留 亜弥

加納 里美、木下翔、茂木明子(以上 8 名)

欠席 飯野 優祐、塚本 哲也

〔事務局〕

高橋 秀治、田境 志保、北谷 正雄、塚田 恵理子、鈴木 俊晴、佐藤 薫子(以上6名)

4 会議の経過

館長あいさつ、交代委員紹介、栗田会長が正村委員を職務代理者に指名。

その後、議事録署名人として、会長が自らを含む2名(正村委員)を指名した。続いて、事務局より展覧会の実績、令和5年度の展覧会の予定、これまで運営協議会でいただいた意見をまとめ実施状況について報告した後、各委員より意見を聴取した。

5 会議内容

事務局(北谷・鈴木)

(1)展覧会の実績報告について

- ・「交歓するモダン機能と装飾のポリフォニー」
- ・「未生の美」展
- ・「ゲルハルト・リヒター展」

会長

ただいまの報告についてご意見やご質問をお聞きしたい。

委員

展覧会の件ではないが、先回リクエストした授乳室の件がかなえられ、ありがたかった。先ほど拝見し、あんなにも温かく受け入れてくれる授乳室をみたことはなく、このような美術館は他にない。他の美術館のモデルになると思う。この感動を子育て世代にぜひ伝えたい。

リヒターを知らなかったがリヒター展は感動した、ガイドツアーも初めて参加した。知る

ことによって毎回発見があった。ガイドツアーもリピーターとなる方がいてファンを増やしていることを実感した。この美術館の空間とマッチした何度も来たくなるすばらしい展覧会だった。

委員

リピーター展を目的に来た人が未生の美を観覧し、ローカルなものを再発見する機会となったことは、豊田市にとってもよいものだったのではないかと。豊田市美術館には、豊田市出身の作家の作品が少ないローカルなものにもっとスポットを当てるとよい。

アンケートに「看視員のプレッシャーが厳しく集中できなかった」とあるが、自分の認識では、豊田市美術館の看視はフレンドリーと感じる。しかし、海外での事件を鑑みるとセキュリティの担保は課題と感じる。

アンケート結果によると、71才以上の来館者は10%未満であり、若者向けの展覧会になっている。高齢者をどうとりこんでいくか、また福祉施設や病院にいるアートに触れる機会がない方たちにどう届けていくかが課題。ガイドボランティアツアーをオンライン配信するなどできることから対応すべき。ヴァンジ彫刻庭園美術館へ視覚障がい者の方と一緒にいった。そこでは作品に触れることができた、豊田市美術館も公共の美術館として、多様な人々にアートと触れ合う機会を作ることが必要。

会長

館の運営については後ほどにして、展覧会についての意見をお聞きしたい。

委員

展覧会の話ではなくいまの件について少し話したい。70才以上の来館者が少ない理由については、よくわからないが、実際に横浜から来ていた母に観覧をすすめたが、駅から遠く車もないためあきらめたということがあった。立地により高齢者が来にくいことがあるのでは、タクシー割引を知らない人が多くもったいない。

アンケートに「ショップが狭い」とあったが同感。

石畳がメイン通路だが車いすでは通りにくい。正面で写真を撮りたいなどの要望をかなえられないのは切ない。舗装ができるとよい。

会長

運営のことについては、事務局から説明があると思うので広報面について吉留委員ご意見をおねがいします。

委員

観覧者数の目標はどのように設定しているのか。また、年間パスポート利用数が増えたのか所持する人が増えたのかどちらか。

事務局

目標人数は、展覧会の規模、過去の実績、予算に基づき積算している。リヒター展は東京の3分の1程度を想定し高めの設定をしている。年間パスポートについては、販売促進のためキャンペーンを実施した。来館者数が少ない展覧会では、所持する方の3分の1くらいの方が利用してくれる。リヒター展では購入者が多かった。

会長

この議題のなかで他にご意見がなければ次の議題へ進めます。

事務局

(2)次年度の展覧会について

- ・「(仮)吹けば風」、「(仮)粋と波」
- ・「(仮)フランク・ロイド・ライト」
- ・「(仮)未来の驚異の部屋」

委員

目標観覧者数は、前年度、今年度と比較して多いのか少ないのか。

事務局

毎年15～20万人を想定している。

委員

ここに記載されている以外に共催の可能性はあるか。
ない場合は、今年度同様に無料ベースの広報を考えているか。

事務局

いまのところ他に予定はない。無料、有料問わず広報していく。

委員

展覧会ごとにターゲットとなる年代を設定しているか。

事務局

細かく設定はしていないが、展覧会ごとに興味を持ってくれそうなところに広報していく。

委員

リヒター展で試行したオンラインチケットの販売の予定は。

事務局

現在検討中で、決定次第広報する。

事務局

(3)その他

・これまでいただいた意見について

委員

樹木自治区も高齢化進んでいる。回覧を見てもらえなくなっている。いかに情報を高齢者に伝えていくか考えていく必要がある。自分も委員になり美術に親しめるかと思ったが多忙により実現できていない。多忙で余裕がないときこそ、美術が癒しや力になるものだと思うので、今後、自分自身が美術に親しみ自治区内に伝える方法をみんなでも議論し豊かな人たちの集団となれるようにしたい。

委員

駅前の案内所で勤務していて、リピーター展のリピーターが多いと感じた。リピーターが増えることがまちの活性化につながることを実感した。「交歓するモダン機能と装飾のポリフォニー」では、カメラを提げた若い女性をまちなかで多くみかけ、おしゃれなカフェを利用する姿がみられた。市外からの元気な高齢者の方がたくさんお越しくださっている。そのような方々は紙の媒体があると安心される。豊田市美術館の場所を案内しやすい資料を作成していただきたい。

一方ですてきなちらしは記念にもって帰る方が多いので、案内所へはたくさん配布していただけるとうれしい。

委員

コロナ禍でこれだけの成果がだせているのは、館長をはじめとする職員のみなさまの努力の賜物だと思い感謝する。今後も新しいこと、美しさ、楽しさ学びを提供していただけるとありがたい。

委員

初めてこの会議に参加する。愛知県外から参加するのは私ひとりだと思う。さまざまなデータから思うことは、先ほどから70代以上が話題になっているが、3～5年後には、60～70代の方がみな上へスライドするなかで、この年代がこれだけ来館してくださっている。各県の美術館が最も困っていることは、子育てと学校と仕事で忙しくいちばん集めにくい20～30代、30～40代の層が3分の1来館しているのはすごいこと。豊田市に住んでいるとわからないかもしれないがこの層を取り込むためにどの公立美術館も大変苦労している。ワークショップ開催など努力しているのに関わらず伸び悩んでいるなか、豊田市美術館にこれだけ若い世代が来館していることは、これが

ら10年後、20年後も減ることがないので、非常に素晴らしいことだと思う。
他県で仕事をしており、看視や専門職の方などの面接のときに「どこの美術館が一番好きか」と10人に質問すると2～3人は豊田市美術館と回答する。
東海圏以外の学芸員になりたい方たちにとってもあこがれの美術館であると言えると思う。また、会議資料や前回までの意見をこれだけまとめられたということは、豊田市美術館のみなさんの細やかな努力の賜物だと思い感服いたしました。これは私の感想です。

委員

市外の友人を案内することになり、リヒター展を6回観覧した。観覧後は市内のお店を案内することになった。この経験から美術館を中心として豊田市を活性化できるとよいと思った。弊社であるひまわりネットワーク株式会社で、できることもあると思うがまだうまくできていないと感じている。
展覧会とお店のコラボなど博物館が開館するまでが勝負だと思う。
太田市長の発信力はすごいと思っているのでもっと活用できるよう一緒に何かできればと思っている。

会長

それでは、木下委員、茂木委員一言ずつおねがいします。

委員

名古屋市の観光協会のようなところに勤めている後輩が愛知県の案内をするのは難しいと言っていた。観光協会のような場所に広報していくとよいのでは。
これまで会議の意見をまとめていただいたことはすばらしいと思うがこれには目標や期限が設定されているのか。

事務局

単年度予算で事業を運営しているため目標期限があるものもないものがある。施設の改修を伴うものは、数年に一度のタイミングに合わせる必要があるため、すぐに対応できるものは着手するがそうでないものはお時間をいただくことになる。

委員

目標期限が定められていないとどのように評価すればよいのかわからない。
設定されている方が説明される側にとってはわかりやすい。
70才以上の方が今後、無料になってもアンケート結果をみると中学生以下は無料にも関わらず利用が少ない。たとえ高齢者が無料になっても交通手段等の改善や、アクセスが悪くても来たいと思ってもらえる工夫をしない限り利用が増えるとは言えないのではないか。

委員

資料5について、先ほどお伝えしたとおり、ほんとうにありがたい。意見を真摯に受け止め子ども向けの事業に注力していただけている。学校教育の中で観覧の機会を得られることにより美術に興味のない保護者が興味を持つきっかけになるかもしれない。

会長

事務局から補足があれば。

事務局

先ほど説明不足であったかもしれないがアンケート結果の年齢層は回答された方のみになる。子どもたちは学校単位で来館しており、今後博学連携の取組によりさらに増加する見込みである。

アクセスの件も大きな課題と認識している。豊田市は駅周辺の改修を計画しているところであるので、効果的な豊田市美術館、博物案への案内を関係部署と調整しているところ。

事務局

70才以上の方への取組みについて、ここ2年ほど作品ガイドボランティアの自主的な組織が交流館でフレイルケアの一環として市内の施設で体操を行っている方々のイベントにご一緒させていただき体を動かしたあと脳を動かしましょうということで鑑賞ベースの活動を試行している。来館されることが困難な方へも美術を通して活力を与えることに寄与する。市立の美術館として地域に出て使命を達成するということは念頭において活動している。本日いただいたご意見は、課題として抱えていることに、みなさんが関心を持っていただいていることが分かり励みとなった。

会長

本日は豊田市美術館への愛が溢れる会となり活発な意見交換ができた。時間が超過してしまったことをお詫び申し上げます。以上で協議事項を終了します。